



日本海軍の歴史

野村 実

190781211

中尾祥樹

第一章創設と発展

帝国海軍の創設と発展

- 長崎海軍伝習所
- 戊辰戦争と海軍
- 急務となった艦船の補充
- 海戦の本格化
- 戊辰戦争の終結

第一章創設と発展

帝国初期の発展

- 海軍と陸軍
- 海軍発展の基盤

統合の参謀本部の組織

- 参謀本部と「統帥権独立」
- 統合の参謀本部の発足
- 統合の参謀本部の終焉

第一章創設と発展

アメリカのハワイ併合と日本海軍

- ハワイをめぐる日米の衝突
- アメリカの対日戦略研究

海軍軍令部発足と戦時大本営条例

- 大演習実施による戦闘方法の研究
- 海軍参謀本部設置をめぐる議論
- 海軍軍令部と戦時大本営

第二章 明治の戦争

日清戦争

- 清国の海軍力
- 戦局の推移
- 豊島沖海戦
- 兵力の配分と戦法の確立

第二章 明治の戦争

北清事変

- 義和団の蜂起
- 救出隊の派遣
- 列国の中での日本軍の位置
- 厦門事件
- 事変の終結

第二章 明治の戦争

第一回日英同盟条約の成立

- 日英同盟条約成立の下地
- 有事を想定した軍事会談

エドワード七世戴冠式と第一回日英軍事協商

- 英国王戴冠式と日本海軍
- 日英軍事協商の成立

第二章 明治の戦争

戦時大本営条例改定と軍事参議院

- 戦時大本営条例に関する山本改定案
- 戦時大本営条例の改定

日露戦争

- 日露開戦とロシア艦隊
- 丁字戦法の発案者
- 日本海海戦の勝利

第二章 明治の戦争

英独対立と第二回日英同盟条約

- ドイツの艦隊法とイギリス海軍
- 第二回日英同盟条約の調印

貞愛親王訪英と第二回日英軍事協商

- 貞愛親王の訪英
- 第二回日英軍事協商の成立

第三章 八八艦隊を目指して

七割軍備論の登場

- 佐藤鉄太郎の国防論

帝国国防方針等の初度決定

- 国防をめぐる陸海軍の態度

- 帝国国防方針等の内実

ジョージ五世戴冠式と第三回日英同盟条約

- 再び英国王戴冠式への差遣

- 日米関係の悪化と第三回日英同盟条約

第三章 八八艦隊を目指して

第一次世界大戦

- 第一次世界大戦への参戦
- 戦局の展開と日本海軍
- ドイツへの調査団派遣と秘密覚書

帝国国防方針等の第一次改定

- 建艦政策変更の動き
- 帝国国防方針等の改定と中国
- 第一次改定の内実
- 八八艦隊予算の成立と重圧

第四章 海軍軍縮の時代

国際連盟発足と日本海軍

- 国際連盟の発足
- 国際連盟関係事項研究会

ワシントン会議と海軍軍縮条約

- 日米建艦競争の行方
- ワシントン会議における日米の攻防
- ワシントン海軍軍縮条約

第四章 海軍軍縮の時代

帝国国防方針等の第二次改定

- ワシントン条約との調整
- 第二次改定の内実

第一次ロンドン海軍軍縮会議

満州事変から第一次上海事変へ

- 満州事変の勃発
- 第一次上海事変

第四章 海軍軍縮の時代

昭和天皇と閑院宮・伏見宮両総長

- 昭和天皇と側近の皇族
- 閑院宮載仁親王と陸軍
- 伏見宮博恭王と海軍

帝国国防方針等の第三次改定

- ロンドン条約との調整
- 軍縮無条約時代の国防方針
- 第三次改定の内実
- 昭和天皇の下問

第五章 太平洋戦争への傾斜

ジョージ六世戴冠式と日本の進路

- みたび英国王戴冠式へ出席
- イギリスの対日配慮
- イギリスとドイツのはざま

盧溝橋事件から第二次上海事変へ

- 盧溝橋事件と近衛内閣
- 第二次上海事変と「大本營令」
- 日本の国家運営と中国の反応

第五章 太平洋戦争への傾斜

ドイツとの同盟政策

- 日本海軍におけるドイツの比重
- 日独防共協定締結によるイギリスの離反
- 日独軍事同盟交渉とソ連の動き
- 第二次世界大戦開戦時のドイツ海軍
- ドイツの早期戦勝の機運
- 日独伊軍事同盟への流れ

第五章 太平洋への傾斜

日米海軍軍備競争

- アメリカの海軍増強計画
- 日本の対米海軍力の見通し

対日経済圧迫と石油問題

- ABCD包囲網の実態
- アメリカの対日制裁と開戦の見通し
- 戦火の拡大と各国の対応
- ABCD包囲網の完成

第五章 太平洋戦争への傾斜

石油備蓄と早期開戦主張

- 日本の石油備蓄
- 石油需給の計算に基づく早期開戦論
- 石油需給の危機的予想から開戦へ

第六章 太平洋戦争と終焉

日本の戦争指導

- 開戦前における戦争指導計画
- 戦局の展開と戦争指導

日本海軍の作戦指導

- 海軍の年度作戦計画
- 実行された海軍作戦の概要
- 作戦指導を担った軍令部

第六章 太平洋戦争と終焉

第一段作戦

- 開戦前の作戦計画
- 山本五十六主導のハワイ作戦の是非
- 「最後通牒」をめぐる山本五十六の懸念

第二段作戦

- 第二段作戦における山本五十六の積極攻勢
- 山本構想の破綻による日本の劣勢

第六章 太平洋戦争と終焉

第三段作戦前期

- 山本五十六の戦死
- 古賀峯一の決戦志向と「絶対国防圏」

第三段作戦中期

- 日本の通信傍受能力
- 決戦兵力の喪失と空母主体の艦隊編成
- 古賀峯一の遭難と戦局の悪化

第五章 太平洋戦争と終焉

第三段作戦後期

- 劣勢の中での作戦方針の転換
- 連合艦隊司令部の所在
- 台湾沖航空戦における戦果の誤算
- 比島沖海戦
- 栗田艦隊のレイテ突入

第六章 太平洋戦争と終焉

戦争最終期

- 本土決戦を見据えた作戦計画
- 沖縄決戦と「大和」
- 最終局面での特攻戦略

敗戦と海軍の終焉

- 終戦をめぐる海軍と陸軍
- 降伏文書の調印と東京裁判